

第18回香川県子ども・子育て支援会議 会議記録

- 1 開催日時 令和3年10月14日(木) 10時00分～11時20分
- 2 開催場所 香川県社会福祉総合センター 大会議室
- 3 出席委員 上野委員、榎原委員、折目委員、片岡委員、窪田委員、紫和委員、滝委員、坪井委員、中橋委員、西岡委員、前田委員、毛利委員、森委員、山本委員、吉村委員 計15名
(欠席 白井委員、谷川委員、平岡委員、真鍋委員)
19名中15名が出席し定足数を満たしており、本会議は有効に成立。
- 4 傍聴者 0名(定員10名)
- 5 議事
 - (1) 第2期香川県健やか子ども支援計画(令和2年度～令和6年度)施策の実施状況等について
 - (2) 香川県における就学前の教育・保育等の現状について

(事務局) (第2期香川県健やか子ども支援計画(令和2年度～令和6年度)の施策の実施状況について、資料3に基づき説明。香川県における就学前の教育・保育等の現状について資料4・5に基づき説明。)

(毛利会長) 事務局からの説明について、ご質問ご意見をいただきたい。

(窪田委員) 実施状況について、資料3の13ページ一番下に、親子読み聞かせ教室に参加した保護者の割合ということで、数値目標の実績が出ているが、女性の方で、職に就かれている方がどんどん増えていると思う。さらに、土日や祝日に仕事の方も結構いらっしゃるなかで、物理的に、この読み聞かせ教室に参加できないという方々が増えているのではないかと思います。そもそも、このことを数値目標とするのが、妥当なのかなという気がした。また、そういう意味では、コロナの影響がなくてもこの数値目標を達成するのは難しいのではないかと思います。

(毛利会長) 共働き世帯が増えている中で、参加するのが物理的に難しいのではないかと。そういう意味で、この数値目標の設定自体がどうなのかという意見だった。

(事務局) 本項目については、生涯学習・文化財課で所管しており、昨年度分については先ほど説明があった通り、コロナの影響ということで出席者数が減少してきたと聞いている。ご意見いただいた物理的に参加できないということについては、持ち帰り、生涯学習・文化財課の方で実施日程等について検討していけないかということ伝えて参りたい。

(毛利会長) 読み聞かせ教室に参加できないからといって家庭において読みきかせをすることの意義がなくなるわけではないので、何らかの形で読み聞かせができる、そういう親子関係が必要であり、こういった取組みが重要なのではと思う。

(片岡委員) 2点述べる。1点目は、6ページに就学前の教育・保育の充実について、8ページに放課後児童クラブについて記載があり、どちらも新規事業として、感染症拡大の影響による市町への支援について挙げている。相談窓口の設置、看護師派遣を挙げているが、その他に、どのような支援をしていただいたのか、具体的に教えていただきたい。

あわせて今日の資料ではないが、保育、放課後児童クラブに限らず、子どもに関わる仕事に従事している人は、自分がうつらない子どもにうつさないということで、大変精神的にも負担が大きかったと思う。ワクチン接種に関して、どのような環境整備や実施になっていたのか、県として、実態を把握していたらお聞きしたい。

2点目はこの会議で何度も申し上げているので、お願いということでもう一度お話する。7ページに、質の高い就学前の教育・保育の充実について記載がある。そこには、教育委員会で実施していること、それから知事部局での実施についてそれぞれ記載されているかと思う。国においては、就学前の教育・保育全体の質の向上に向けて、その中核となる幼児教育センターの都道府県への設置による体制整備が進められていると思う。香川県においても、ぜひ幼児教育センター、もしくは乳児も含んで、乳幼児教育センターの設置による推進について、検討をお願いしたい。

(事務局) 1点目について、保育所等と放課後児童クラブに、いわゆる専門家の方を派遣し、各園各クラブで課題となっていることや悩まれていることについて助言をするということで、昨年度は窓口の設置や、資料にもあるようにコロナの感染予防に関して、感染対策の研修を受けている専門的な知識をお持ちの看護師の方に、現場に入ってもらい、予防のことについてお話をいただいた。また、片岡委員のご質問の中にもあったが、コロナの感染に関して不安に思われる方がいるということで、臨床心理士の派遣をご希望になった園もあり、職員が感染症拡大への不安やストレスを感じてしまうことへの対処方法や、保護者・児童が抱えるストレスへの保育所としての対応方法について助言いただいた。要望として多いのは、やはり気になる子ども、発達に課題のある園児や児童に対する接し方等についてで、臨床心理士や作業療法士などの専門家が助言している。

専門家派遣の他にも、マスクや消毒液の購入にかかる経費や、職員が感染症対策の徹底を図りながら業務を継続的に実施していくために必要な経費について、かかり増し経費と言うが、これについて補助を行った。また、マスクや消毒液の寄付があったり、国からのあっせんがあったりした場合には、それを、各保育所と放課後児童クラブに市町を通じて配布した。

ワクチンの話については、県の広域集団接種を香川大学と四国学院大学で行ったが、保育所等の先生方や、放課後児童クラブの支援員さんに、市町を通じて希望をとり、接種していただいたり、一部の市町ではそういう方々を優先したり、キャンセルが出た場合に行っていたり、優先的に接種ができたと思っている。

2点目の幼児教育センターについては、従来からご意見も賜っているが、教育委員会とも相談しながら、また研究させていただければと思っている。

(事務局) 幼児教育センターの設置に向けては、文部科学省の方でも幼児教育推進体制構築事業ということで、説明会も何度か実施されている。オンラインだが、その説明会に参加するなどして色々とセンター設置に向けて、何が必要なのか探っているところ。

(中橋委員) 少し計画から離れるかもしれないが、全体的なことで、コロナ禍が長引いている中で、子どもと触れ合う機会がなかなか難しい、あるいはマスク等の生活で、表情が伝えづらいというようなことが起こっている。世界的に初めてのことなので、これから子どもの育ちにどういったことが起こるのか、子どもに関わる人たちのしんどさと、先行きの見通しへの不安があると思う。何か起こってから、例えば、表情が分かりづらいので、コミュニケーションの問題が子どもたちに起こるのではないか、あるいは消毒ばかりで、非常に神経質でナーバスになるなど心理的な問題が生まれるのではないかとか、様々な漠然とした不安が子どもと関わる人、もちろん子育て家庭も含めてあると思う。そうしたものが、具体的にデータが出てから対応することもできると思うが、その前に、今できることは何なのかという勉強をしたり、セミナーをしたり、あるいは保育に関わる人同士が集まって、それぞれの不安を語り合うといった機会の提供も、ぜひご検討いただきたいと思う。

第2期の計画が始まってまだ1年目であるが、5年待たずに、計画の見直しも必要ではないか。具体的には、子どもの生まれる数がデータでも18年ぐらい前倒しになるというような、少子化の進行が早くなるようなこともある。今日示していただいた目標数値も概ね達成していて、県の全体でいうと量の見込みが確保されているところではあるが、別の課題も起きてくるのではないかと思う。今の数字だけではなく、予測の数字に基づいて、さらに予測の数字もブラッシュアップして、コロナ後を考え、計画の数字や内容の見直しを図っていかないといけないのではないかと感じながら、全体の話聞いた。

それと最近の話題と今のことと絡めて申し上げると、今月の頭に、東京の品川駅にある「今日の仕事は楽しみですか」というデジタルサイネージの大きな広告が、大炎上したというニュースが、皆様の記憶にもあるかもしれない。「今日の仕事は楽しみですか」という白地にテキストだけの文字を見て、楽しくないといけないのかとか、それを見ると心が苦しくてとか、ネット上で大炎上したということがニュースになっていた。それを踏まえて言うと、資料3の13ページの元々計画の中にある数値目標だが、「学校に行くのは楽しいと思うか」という、同じようなフレーズで、子どもにアンケート調査をしている。これは学校に行くのが楽しいと答えている子どもたちが8割を超えているということで、無邪気でもいいなと思う。その一方で、今日のニュースで、子どもの自殺が今まで史上最高の415人、不登校に至っては19万人ということで、これまでにない数字をたたき出したと聞いた。この調査の仕方が悪いということではないが、「学校に行くのが楽しいですか」と聞かれたときに、心が本当にぎゅっとなる子どもたちがいるということはどう捉えて、どう支えていくのか。もちろんスクールカウンセラーさん等の取組みをされているわけだが、予想を上回って、そうした子どもたちが増えてきているということについて、私たち支援者として何ができるのかなということ、心に置いて自分自身も活動しないといけないなと感じている。

それと、これは重点項目でも審議項目でもないが、あわせて13ページにある次代の親の育成の取組みについて、ライフデザイン等々私も関わらせていただいている事業もあるが、先ほど申し上げた少子化の進行が早くなるということもあり、今回のコロナで非常に子育て

て家庭のリスク、若い人の言葉で言うとコスパが悪いみたいな風潮が流れてきている中で、数字でも言葉でも表現できないけれども、子どものいる暮らしの温かさやすばらしさみたいなものを、どう次の親になる世代に伝えていくかは、少子化の進行に歯止めをかけるためにということではないかもしれないが、営みの中で、大事なことなのではと思う。次代の親ということで、高校生や20代の若い独身の方々に向けて、子育ての尊さみたいなことを押し付けではなく伝えられる機会を、これまでやっている取組み以上にやっていかないと、結婚する人も少なくなり、子どもを育てていく方々も少なくなるのではないかと、今回のコロナをきっかけにますます加速化するのではないかと、このことを非常に懸念している。

(毛利会長) 第2期支援計画の2年目を迎えたところで、コロナの状況というのは想定の中に入らなかった。そういうことも踏まえて、支援計画の中の、特に数値目標についての見直し等も必要になるかもしれないと思う。先ほど窪田委員から、読み聞かせの参加の数値目標に関する意見もあった。それから少子化ということで、コロナの中で、予想以上に加速している部分もある。数値化できるものとできないものがあるが、達成状況のものさし自体は、刻々と新しい状況の中で見直していけばいいかと思う。

(事務局) たくさんの貴重なご意見に感謝申し上げます。先ほどご紹介した県の総合計画は、新型コロナの現状を踏まえて策定しているが、この子ども・子育て支援計画はコロナ前に策定したものである。ご指摘の通り、県全体としてもコロナに対応して計画を見直す必要もある。真剣に考えないといけないのは、子ども・子育てに関わるものだと思っている。前計画の時も、特にこの量の見込みと確保方策について、策定した状況と変わっているということで、中間年での見直しをした。現計画については、昨年作っていただいたばかりで大変恐縮だが、中間年となる来年度、今後検討をしていくが、まずは数の部分で見直しが当然必要になるかと思うので、その際は皆さまご協力をお願いしたい。

また、内容の面について、保育の現場など、コロナで本当にいろんなご苦労がある中で、今だからこそこできることに対して、それぞれの部門の皆さんでお考えいただき工夫していただいている。既に取り組んでいただいていると承知しているが、行政にできることがあるのであれば、計画にコロナと書いていないから取り組んではいけないわけではないので、現計画の中でもできないことはないと思う。例えば去年は、地域子育て支援拠点のみなさんが施設を閉めないといけないような時のために、オンライン活用の手引きなども作成させていただいた。私どもがなかなか思いつかないようなお知恵があれば、その都度可能な範囲で対応させていただきたい。

ライフデザインについては、本当に年々ご希望が増えている。知恵とマンパワーでできることと皆様のご協力をいただいてできることによって、来年度に向けて工夫していきたいと思うので、よろしくをお願いしたい。

(事務局) コロナによって、学校は何をするところなのかという存在意義を問われたと感じている。ご指摘のあったとおり福祉的機能をもう少し強化しなければというところが課題とお感じしており、トラブルを含め人間関係を学ぶところでありながら、密を避けなければならないということで、今後はその影響を考えていかなければならないと思う。そのような中で、一つの視点として最初にお話いただいた、子どもを支える人を支えるということで、その視点は重要だと思っている。義務教育課では、子どもの相談や保護者相談を行うスクールカウンセラ

ーを支えるスーパーバイザーの事業を令和2年から実施しており、また緊急派遣のスクールカウンセラーを支えるCRTというチームで、その緊急派遣されるスクールカウンセラーをフォローするというような、支える人を支える取組みも徐々に始めている。スクールソーシャルワーカーについても、月例研をもって、情報交換したり、1人職場で孤独を感じている方が多いなか、お互いに励ましあったりしながらやっている。

2つ目の指標については、以前は不登校児童生徒数千人当たりというところを指標としていたが、不登校が問題行動ではないと、基本的な考え方が大きく変わったため、不登校という後ろ向きな問題点に焦点を合わせるのではなく、もっと前向きに、学校が楽しいというポジティブな指標にしたいということで設定した。しかし、ご指摘いただいたように、それでぎゅっと心が悲しくなる子どももいるということで、まだまだ吟味が必要だと考える。指標については、不断の見直しを図りながら、一方では学校は本当に頑張ってくれていて、コロナ禍で色々と制限される中で、代替措置として修学旅行を2日に分けて日帰りで行ったり、皆で校庭の果実の試食会をしようとか、音楽会を開こうとかであったり、代替行事に知恵を絞っていただいている。その中で、楽しいことを増やし充実した学校生活にしよう、何もなかった1年にしないように、思い出のアルバムがゼロにならないように努力していくので、今後ともご指導よろしくお願ひしたい。

(吉村委員) 学校関係の方がいるということで、先ほど熱いお話をたくさんいただいたが、現実にはそれほど甘くないということをお聞きいただきたいと思う。年度末に各保育所、幼稚園から小学校へ提出する就学児童に関する指導要録は、毎年1人ずつ本当に丁寧に、保育士がどう記載すれば子どものことをわかってもらえるか考えながら作成している。うちの場合は、30人の年長児がおり、各小学校10か所ぐらいに分かれて、あと20人が1つの小学校に固まっていく。その時に、20人の指導要録を提出はしたが、他の1人、2人しか行かない学校に関しては、丁寧に学校から訪問があった。一方で、20人の子どもたちが通う小学校は連絡一つなく、こちらから問い合わせをしても、「後にお知らせします。」で、その年度が終わった。熱い思いを持っているのなら一人一人の子どもをもっと大事に見て欲しいと思う。そういうことが現実にあるということ、学校に関係する方々に、私は知っておいていただきたいと思うので少し苦言を呈させていただいた。

(事務局) 真摯に受けとめさせていただく。

(坪井委員) 7ページの先ほどご意見があった幼児教育スーパーバイザー派遣について、香川県においても、幼児教育センターができたかは把握していないが、元中学校の校長先生が、私立幼稚園の園長を10年やられて、今年、多分幼児教育スーパーバイザーに任命され、いろんな幼稚園を回って指導をするというようなことが、今年度から行われている。

もう一つ違う話題で、自民党の総裁選に出た方の中で、子ども真ん中ということをおっしゃった方がいる。あと、子ども庁が話題になってきている。コロナの関連もあって、出生数が、全国でガタンと落ちて、香川県でも、数字が落ちているというのは非常に心配なところ。そういうことを踏まえて、子どもをもっと大事にしないと、日本の社会は上手く回らないという意識で、子どもが真ん中とか、子ども庁とかという話になっていると思う。そこで、香川県においてお願ひしたいのは、親が働いていても、働いていなくても、できるだけ公平な支援をお願ひしたい。保育所、幼稚園、認定こども園を利用している方に対しては、幼児教育

保育の無償化も含めて、かなり支援がされているが、そういうところを利用していない人に対する支援が非常に弱い。国の制度でいうと子ども・子育て支援の13事業として利用者支援とか、一時預かりとか、いろいろあるが、ここを何とか拡大して、子育てが楽しい、後になってよかったと思えるような、子育ての環境を作っていないと、出生数がどんどん落ち込んでいって、数年で、例えば日本全国で言うと、100万人いたものが97万人になると言っていたペースが、90万をいきなり切るような状況になってきて、コロナのこともあったと思うが、非常に懸念している。香川県においてもいろいろなことを頑張っ、様々なメニューがあるが、もっともっと使ってもらえるようにお願いしたいと思う。

(毛利会長) 出生数、出生率がコロナの中でさらに低下している、そういう危機意識はここにいる皆さん共有していると思う。

(山本委員) 資料3の9ページに、放課後児童クラブ実施か所数がAという判定がされている。毎回この会で発言させていただいているとは思いますが、実施か所数でいえば足りていて、A判定だとは思。実際、私も現場で働いたりしているが、児童数に対して、確かに面積はあるのかもしれないけれど、子どもがみんな気をつけてその場所にいるわけではないし、机や物があるということも考慮しなければならない。このコロナの時期で、子どもたちもマスクをしなければならぬといったうっぶんが溜まって、ちょっと気性が荒くなっている現状もある。そのような中で、場所が本当に足りているのか、その場所の広さでいいのか、さらに先生方も、それに対応して人数が足りているのか。そういう変化に伴った事情に対応するために、先生方がもっとスキルを上げていかなければならないのではないのか。代替として登録している人の数も少なく、その上、辞めていく数も多いので、それをどのようにして補充していくのか。この評価ではAだが、その中身をもう少し見ていただきたいという思いがある。

(事務局) コロナに関して申し上げますと、山本委員がおっしゃるとおり、今のスペースでいいのかというのは、私どもも懸念している。学校の敷地内にあるところが多いため、学校施設の利用、もうすでに利用させていただいているクラブも結構あるが、まだまだご協力をいただけるところがあるのではないかとということで、先日、知事名で、各市町の教育長に依頼を差し上げたところである。コロナ以前から、場所によっては、ぎゅうぎゅうというお話もお伺いしている。放課後児童支援員の数の話にも繋がるが、校庭なり体育館なりがお借りできると、ストレスがかかっているような子どもも体を動かすことで、ストレス解消をしていけるといふこともあるのかなと思う。コロナで、密を避けるという意味でも、ご協力いただけるところが増えるといいなと思う。おっしゃるように、実施か所数だけではなく、中身の充実についても、引き続き良くなるように努めて参りたい。また、恐縮だが、PTAからも学校にお願いをしていただくと大変助かる。学校は学校で管理上の問題で、なかなか難しいというお話もいただいております、ご無理が言えない部分ではあるが、可能な範囲でお願いできたらと思う。

(中橋委員) 27ページの児童虐待について、児童虐待の再発防止のため、虐待をしている保護者のケアをするということで新規でここに記載されている。これについては、非常に賛成である。ただ、効果的な家族再統合を図ることを目的として事業になっているが、ご担当者は十分お分かりだと思うが、余りに急いで家族再統合をするということではなく、家族に返すほうが

いいのかどうかという面で、里親さんをはじめとした地域の受け皿を充実させ、急いで家族再統合することが一番いいんだということがご念頭にあることで辛いことの繰り返しにならないように、ぜひお願いしたいということを最後に言わせていただく。

(毛利会長) それでは以上で議事は終わりたいと思う。その他として事務局から何かあるか。

(事務局) 次回の会議開催については、来年度の開催を予定しており、第2期香川県健やか子ども支援計画の2年目である令和3年度の施策の実施状況をご報告したいと考えているので、よろしくお願ひしたい。

また、本会議の委員の皆様方の任期が来年の1月末までとなっている。任期満了が近づいたら、再度、就任依頼をさせていただきたいと考えているので、委員の皆様方においては、引き続き、お引き受けいただけると幸いに存じる。

(毛利会長) それでは以上をもって、本日の会議を終了する。

以 上